

《履修上の留意事項》この授業ではGoogle Classroomを使用して授業資料の配布や出席確認を行います。

《担当者名》教授 / 花淵 馨也hanab@

【概要】

「食」は人間が生きていくための基本的営みであるが、それは単に栄養を摂取するためだけの行為ではなく、人間同士の社会的関係や、文化的意味とも深く結びついている。ゆえに、食の不調や乱れは、社会や文化に生じている歪みや摩擦を表す症状として読み解くこともできる。この講義では、現代社会で増えている「拒食症」という病いについてとりあげ、自らの身体を虐待するかのような拒食という症状と現代社会が抱える人の生きづらさの問題との関係について医療人類学的な視点から考察する。

【学修目標】

病気や医療を社会的・文化的に構築される現象として相対的に捉える医療人類学的視点と方法を説明する。
現代社会における人の生活と病気との関係について広い視野から捉える能力を身につける。
医療の基盤となる深い人間理解と、社会の未来を切り拓くための教養を養う。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	ガイダンス	講義全体の内容と目的の説明	花淵 馨也
2	ニンゲンだもの： 何を食べてヒトになったのか？	人類の進化と食の関係について説明できる。	花淵 馨也
3	ニンゲンだもの： 食べるもの / 食べないもの	ことばと文化の仕組みについて説明できる。	花淵 馨也
4	飢餓と飽食： 農耕革命とむし歯	文明とむし歯の関係について説明できる。	花淵 馨也
5	飢餓と飽食： 苦いチョコレート？	世界システムとむし歯の関係について説明できる。	花淵 馨也
6	病気の起源と意味： 戦争とランゲルハンス島	病気の社会的要因について説明できる。	花淵 馨也
7	病気の起源と意味： 病いの本当の苦しみとは？	「疾病」(disease)と「病い」(illness)の概念について説明できる。	花淵 馨也
8	拒食症とは： 歪んだ身体イメージ	拒食症の症状について説明できる。	花淵 馨也
9	拒食症とは： グループワーク「なぜ女性の拒食症が多いのか？」	拒食症の社会的要因についてグループで議論し、意見をまとめることができる。	花淵 馨也
10	ジェンダーとダイエット： 管理する / される身体	近代的自己 = 身体と拒食症の関係について説明できる。	花淵 馨也
11	ジェンダーとダイエット： アイドルは誰のものか？	女性の身体への社会的まなざしについて説明できる。	花淵 馨也
12	現代社会とフードスケープ： 無縁と孤食の時代	現代の社会関係と食事風景の変化について説明できる。	花淵 馨也
13	現代社会とフードスケープ： 共に食べる喜び	つながりと幸せを生む食事の働きについて説明できる。	花淵 馨也
14	ディベート： プロアナというライフスタイル	多様な価値観を認め、異なる考えをもつ他者と意見を交わす能力を高める。	花淵 馨也
15	まとめ	全体のまとめ	花淵 馨也

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

日常の授業態度（20％）、グループワークとディベートでの参加態度（20％）、レポート（60％）

【教科書】

必要に応じてその都度、資料を配付する。

【参考書】

磯野 真穂『なぜいつに食べられないのか』春秋社

波平 恵美子 著『からだの文化人類学』（大修館書店）

池田 光穂 & 奥野 克己 共編『医療人類学のレッスン：病いをめぐる文化を探る』（学陽書房）

そのほか講義において適宜紹介する。

【備考】

この授業は医療技術学部との合同授業である。

【学修の準備】

予習：講義で出された宿題を行う。予告された授業テーマについてインターネット等で調べておく（120分）

復習：講義内容についてのまとめを行う。講義で出された課題に取り組む。また、講義で取り上げた内容について、さらに自分で調べる（120分）

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1. 安全で質の高い歯科医療を提供するために必要な専門知識に基づく問題解決能力と患者ケアのための診療技能とからなる専門的実践能力、および医療・医学研究の発展のために必要な情報・科学技術の活用能力を身につけている。（専門知識に基づいた問題解決能力、患者ケアのための診療技能、情報・科学技術を生かす能力）

DP 2. 「総合的に患者・生活者を支える歯科医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を身につけている。（総合的に患者・生活者をみる姿勢、プロフェッショナリズム、コミュニケーション能力）

DP3. より安全で質の高い歯科医療を実践し社会に適応する医学を創造していくために生涯にわたって自己および他の医療者との研鑽を継続しながら医療者教育と学術・研究活動にも関与できる能力を身につけている。（科学的探究、生涯に渡ってともに学ぶ姿勢）

DP 4. 多職種（保健、医療、福祉、介護）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践できる能力を身につけている。（多職種連携能力）

DP 5. 歯科医療の専門家として、経済的な観点・地域特性を捉えた視点・国際的な視野を持ちながら活躍できる能力を身につけている。（社会における医療の役割の理解）